

教務だより

2012年9月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

夏を整理しよう！

茗溪塾塾長 宇野 雅春

暑かった真夏の8月よりは、少しましになるのかもしれませんが、9月も暑い日々が続きます。連日の夏期講習から、急に平常に戻ると突然気が抜けてしまう生徒を、よく見かけます。自分なりに頑張ったということが、変な安心につながって緩むことがあるということです。

中学受験を迎える小学6年生、高校受験を迎える中学3年生、そして大学受験を迎える高校3年生、それぞれの課題は細かく見れば異なるけれども、この時期の課題は2つです。ひとつは平常に戻ったところでの勉強スタイルを強固に作ること。緩むことでの学習の中断を防ぐことが重要です。もうひとつは、「わからないことをわからないままにしない」ということです。受験が終わったときに、気がつくことなのですが、何となく苦手を避け、ごまかしていることに自分が気がついているようで、気がつかないまま受験に突入することが割と多くあります。自分でごまかしているうちに自分自身もごまかされてしまうということなのですが、そういう状態で「合格」はあり得ないということです。そこに気がつくことが、大切です。そしてごまかさないこと。そこから初めて効果の上がる勉強がスタートします。直前でも間に合うことはありますが、出来れば早く！です。目指す学校のレベルをきちんと把握した上で、最初から、「合格のない受験勉強」になっていないか、しっかりチェックしましょう。

この2つをやりきるために大切なのは「計画作り」と「やり直し」です。

夏期講習では、どの受験学年も大方入試問題を中心に演習を積み重ねています。受験のレベルを夏のうちに経験しないとレベルアップが間に合わないということですが、夏はかなりの量を経験するために、消化しきれていないこともたくさんあります。それを見直していくことで実力を着実に上げることが出来ます。

教科的なことだけに限って言えば、それは単なる「やり直し」に終始すると思いますが、ここでは、もう少し突っ込んで「夏を整理する」ということを考えてみようかと思えます。

まず受験勉強の生活習慣です。朝早くのテストから長時間の学習をおこない、授業の合間を効率の良い自習で埋めて、宿題までこなしてきました。強制されて出来たことなので、生徒によって格差がありますが、そこを自分で何とかこの後の学習にもつなげていくこと、夜遅くよりは朝早くを励行し、その良さを学校が始まってからも活かしていくことが重要です。

次に、勉強のやり方として、インプットよりはアウトプットを重視するということです。夏期講習などでは随所に小テストがあり、自分が把握している内容をアウトプットし、その後やり直して完全に内容を把握していくスタイルが実施されていたと思います。内容を覚えるのに書いたり、まとめたり、読んだりのインプットばかりやっている生徒は非常に効率が悪く、共通して「長時間机に向かっているのに成績が伸びない」結果になっています。どのくらい把握しているのか、もしくは把握できたのかを常々アウトプットしてみる勉強法をぜひ取り入れ実践してみてください。ここから始まる「過去問演習」(全学年)「合不合判定テスト」「公中検」(小学生)「V模擬」「北辰テスト」「駿台模試」(中学生)「代ゼミ」などの模試(高校生)なども、アウトプットです。やり直しで強力なインプットに帰ることが出来ます。9月以降受験までここが最重要課題になります。

これに夏期講習での学習内容のやり直しが入って「夏を整理する」ことになるわけです。

ふと気が抜けてしまう9月時期を、「夏を整理する」時期と位置づけ、やりきることが、受験までの大きな飛躍を作るはずです。